

校内研修計画

山梨市立牧丘第二小学校

1 学校課題

本校は山梨市牧丘町の北西部にあり、巨峰作りを中心とした農村地帯に位置している。児童数は46名、全学年単級の小規模校である。恵まれた自然の中で伸び伸びと育ち、明るく素直な子どもたちである。学習態度もまじめで、与えられた課題に真剣に取り組んでいる。しかし、多人数の前や改まった場で話すことへの抵抗感から、主体的に表現したり、聞き手を意識した発表を心がけたりすることに苦手意識を持っている児童が見られる。また、固定的な集団の中で、一部の児童の考えに引きずられがちで、創意工夫して問題解決しようとする気持ちが希薄と感じられることもある。だれもが主体的に自分の考えを表現し、子ども同士で学び合うことができる授業を創造していくことが必要である。

2 研究主題 「自ら学び 高め合う子どもの育成」

～ 国語科における「書くこと」の指導を通して～

3 主題設定の理由

国際化・情報化の急速な発展や価値観の多様化など、社会においては様々な変化が進み、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化している。このような社会を生きていく子どもたちには、社会生活に必要な基礎・基本を確実に身に付け、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に関わりながら生きていくための力が求められている。学習指導要領には、こうした子どもたちを囲む現状と課題をふまえ、「生きる力」を育むために、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それを活用し問題解決していくための思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。また、各教科等を貫く重要な改善の視点として「言語活動の充実」を取り上げており、言語は、論理や思考などの知的活動、コミュニケーション、感性・情緒の基盤であり、特に国語科においては、学校や児童の実態に応じて、様々な言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが重要とされている。

本校では「ふるさと牧丘を愛し、やさしく かしこく たくましく生きる子どもの育成」という教育目標のもと、目指す子ども像の一つとして「よく考えて、進んで学ぶ子ども」が掲げられている。学校経営の努力点の中には、「“生きる力”をはぐくむ教育活動の充実に努める。」という項目があり、学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育み、読書活動の充実や教育活動全体を通じて国語力向上に努めることを具体策として挙げている。自分の考えを自分の言葉で話し、伝え合い、自分の考えを深め、「分かった」「できた」「一緒に学んで良かった」と思う授業を積み重ねていくことにより、目標が達成できると考える。そのためには、その基盤となる「話す・聞く」「書く」「読む」力を育成していくことが必要である。

一昨年度より、「自ら学び 高め合う児童の育成」を研究主題に研究を進め、「自ら考え、高め合う」児童の姿として、

- ・新しい問題に出会った時、疑問や驚き等を持ち、それを課題としてとらえながら、課題解決のために意欲的に取り組む姿
- ・友達に対して分かりやすく自分の考えを伝える姿
- ・友達との関わりの中で互いの考えを伝え合い、自分の考えや技能のよさ・友達のよさに気付いたり、多様な見方・考え方に触れることで、自分の考えや技能をさらに広げたり、深めたりする姿
- ・自分なりの学習方法を身につけ、日常的に問題意識を持って考え、生活の場面の中で学んだことを進んで活用する姿

ととらえ、取り組んできた。この姿を目指すには、言語に関する能力が不可欠で、それを支える国語力を高めることが必要と考え、研究教科を国語科とし「話すこと・聞くこと」(一年次)「読むこと」(二年次)について研究を行った。その結果、主体的な読みや交流活動によって、考えや思いを深めることができ、「話し方・聞き方」などの技能面での成長も見られた。また、音読発表会では、内容を読み取り自分たちなりに工夫して表現できるようになった。こうした子どもたちの姿は、国語だけでなく他教科・領域にも生かすことができた。しかし、「自分の考えを相手にわかりやすく説明すること」「論理的に話したり、書いたりすること」「必要な情報を取捨選択して伝えること」がまだ不十分な児童も見られる。自分の思いや考えをしっかりと伝えることができるコミュニケーション能力を育成することは、望ましい人間関係を築く上で必要不可欠

であり、お互いを高め合うことにも繋がると考える。

以上のことから、今年度は、国語科の「書くこと」の領域に視点をあてて取り組む。書くことは、自分の考えを明らかにする上で大事な活動である。主体的に自分自身の考えを表現し、伝え合うことで、互いがよりいっそう高め合えるような児童の育成を目指し、本主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

- ・「書くこと」「書く力」の実態調査
- ・「書くこと」の理論研究
- ・「書くこと」の授業研究・授業実践
- ・言語活動の充実を図る言語環境づくり

(2) 研究の具体的方法

- ・全体研究会の他に部会研究会を設け、討議や企画を行い、研究を推進していく。
- ・「書くこと」の指導の系列を明確にし、系統的な指導の共通理解を図る。
- ・授業研究や授業公開の機会を設け情報交換を行う。
- ・読書の推進、学びタイム、ノート指導、視写や音読、国語辞典の活用など日常的な実践を行う。

年間校内研修計画

研究主任 山本 ふみ子

研究テーマ	教科	研究内容	担当	学年	時期	TC
自ら学び 高め合う子どもの育成 国語科における「書くこと」の指導を通して	国語科	研究の方向性	研究主任		4月	
		研究主題・副主題	研究主任		4月	
		全体研究の確認 実態調査について	研究主任		5月	
		部会研究(研究計画)	ブロック		5月	
		実態調査分析 部会研究	研究主任		6月	
		部会研究について(報告)	研究主任		7月	
		学習会	研究主任		7月	
		教育課程学習会環流報告	研究主任		8月	
		授業案作成について	研究主任		9月	
		部会研究	ブロック		9月	
		部会研究	ブロック		10月	
		授業案検討	研究主任		10月	
		授業研究	研究主任		11月	
		部会研究	ブロック		11月	
		授業案検討	研究主任		12月	
		授業研究	研究主任		12月	
		部会研究のまとめ	ブロック		1月	
		研究のまとめと来年度の方向性	研究主任		2月	
研究紀要資料作成	各担当		2月			
研究紀要作成	研究主任		3月			